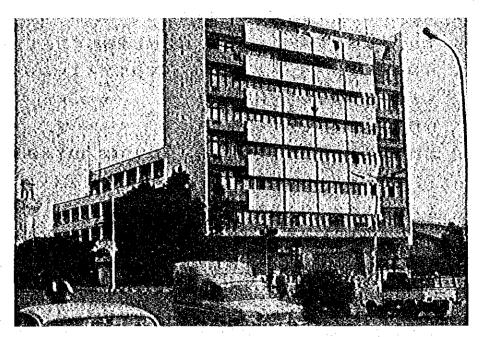
(7) 学生の訓練のため、レーダーを2台、魚探1台、ノナー1台を設置して欲しい。



会議の中心となったカサブランカの海運漁業局

6-2 討議内容

下記の如くモロッコ側から調査団の提出した資料に対して変更の希望及び条件が提示され、これ等の内容について討議を行なった。

内容

(1) モロッコ側のルールにより2.182 KHZの自動餐急受信器を装備する 必要がある。

関連事項

- a 主送信機エキサイターはフリー シンセサイザー方式でなくスポット 式とすること。
- b A1、A2は当面使用しない(若し使用するなら有資格者の乗船が 必要となる)が、将来のことを考えて装備しておいて欲しい。
- c モロッコ海岸局の電波型式、周波数、出力等を後日連絡する。

- (2) 魚艙、急冷室関係について、鮮魚としての処理と凍結処理の両方を訓練出来る様計画したいので下記の如く希望する。
 - a 魚筋の容積は約100M⁸必要と考える。 その保持温度は0~-05℃とし、鮮魚保管用として計画したい。
 - b 薬結艙として、スペースがなければ、上甲板上でもよいから少くと も20㎡の魚艙を持ちたい。

保持温度は-25℃とする。

c 前項の目的のため、凍結室の能力は2室計2TONS/DAYが好ましいが、スペースがとれなければ1室!TON/DAYでも仕方ない。 (フラットタンク表面温度 - 3 0 ℃)

d 急冷室の型式は、大型魚の凍結の必要性からセミエヤープラストも 考えられるが、反面小型魚の凍結の事もあるのでコンタクトフリー ザーに同意する。

ただし大型魚の場合は、フラットタンクを吊上げた状態で凍結する ので、この状態のフラットタンク間スパンが200 MM以上となるよ うに計画して欲しい。

- e 冷凍パンのサイズについては、日本の標準サイズを使用することに 同意する。
- (3) 氷の供給が不足しているので、1TON/DAY 以上の能力の製氷機を1台 設置して欲しい。氷は海水氷とし、フレークアイスとする。
- (4) 船内居住区の冷暖房に関して

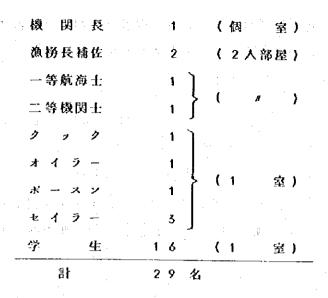
合房は必要ないが、地中海を航行する事も考えており、暖房は必要なので電気ヒーターを各室に装備して欲しい。

なお、本船の基本設計条件として予想し得る夏季、冬季の最高、最低 の空気、海水温はそれぞれ下記の通りである。

		最高(夏季)	最低(冬季)
华	戾	3 5 °C	7 °C
海	水	2 6 °C	1 3 °C

(6) 定員及び居室を下記の様に配置して欲しい。

漁 扮 長1 (個 室)給 長 1 (")



ただし、5~6名分の予備ペッドを設備し、定員に含めること。したがって定員は34~35名となる。

- (6) 海洋調査機器は下記のものを設備のこと。
 - (a) 電動海洋観測用ウィンチ 1台22KW 85KG×19M/SEC
 - (b) NANSEN型転倒採水器(約1,300CC) 1台 温度計2個用フレーム付
 - (c) 転倒温度計

- (d) プランクトンネット (大、中、小 メッシュ型) 各 1
- (7) 本船は通常のトロール漁業による訓練の他、保海(水深 600M ~ 1,000M)トロール漁業を訓練の一環として行いたい。このため、
 - a トロールウィンチは18MM径1,800米のワープをそれぞれ捲きこめる容量を有すること。
 - b 探梅えび用の漁具を1式附属させて欲しい。
- (8) 学生の訓練のため、船橋内の前后方向長さを討議用図面の約3.4Mから5.5Mに拡大して欲しい。

又、船橋外艉向きに装備しているトロールウィンチのコントロールス タンドを拡大した船橋内に設備して欲しい。

- (9) 野菜庫は曝露部に自然通風のみによって保管する型式のものではなく、保冷装置を有する型式のものを設置して欲しい。 保冷温度は+2~+5℃とする。
- (10) 学生の訓練に供するため、船橋内に下記機器を設置して欲しい。
 - a レーダーは2台設置して欲しい。
 - b 魚群採知機の他に、ソナー1台を設置して欲しい。
 - c レーダー、ソナー及び魚群探知機に関して、モロッコ側から
 Tentative Choice List が提出され、調査団は此の内容を検討することを約した。
- (11) 日本製機器の予備品について、もし必要となった場合、モロッコでは 即刻人手することが非常に困難であるため、出来るだけ多く附属させ て欲しい。
- (12) 経済性を考慮して、従来モロッコ国で一般に消費されている燃料に加 えて重質油も主機に使用したいので、これに対応する装置を設備して 欲しい。尚燃料の性状表は入手后、後送する。
- (註1) 会議中にモロッコ側より、現在まだ発効はしていないが、将来のことを 考慮して、 'International Convention for the Safety of Fishing Vessels, 1977 * を満足してほしいとの要請があったが、本船は 漁船ではないこと及び充分内容を検討しないと適用可能かどうか判断出 来ないと云う理由で議事録からは洙消した。しかし、モロッコ側として は満足すべく努力して欲しいとの希望が出された。
- (註 2) 会議中、本船に使用する冷媒フレオン-22のモロッコ国内における補給が心配されたので確認したところ、補給には問題ないとの回答を得た。
- (註 3) 図面、書類、銘板等の文字は英文でよいかとの質問に対し、仏文がもっとも好ましいが、英文でも構わないとの回答を得た。
- (註 4) 本船建造中の図面については、コンサルタント及びN.Kの承認后の図面を各1部参考図として、船主宛送附する様依頼を受けた。

6-3 合意事項

モロッコ側の漁業訓練船の仕様に対する変更の希望乃至要求は、その目的からいって至極妥当と考えられたので、調査団として出来得る限りその希望に沿うべく努力したいとの説明をおこなった。しかしこれらの内容は、非常に船師を押し上げる要素を含んでおり、一力では予算上の制約等も考慮する必要があるので、予算及び基本設計がモロッコ側要求を満足し得る場合にのみ有効である旨を附記し、6-2項の計議内容をメモランダムにまとめた。

調査団とモロッコ側との計議によって合意された漁業訓練船の仕様は以下の通りで ある。

(1) 船 型 船尾トロール型漁業訓練船(2層甲板型)

(2) 船 級 日本海事協会(NK)

(3) 基本要目

	•
全 長	約 385米
垂線間 長	約 330米
<u>#</u> 9 (b)	約 7.8米
型 深 さ	約 3.3米
満載計画吃水	約 29米
総トン数	約240トン
魚 翰 容 積	約100立方米
燃料槽容積	約125立方米
清水槽容積	約 35立方米
主 機 (可変ピッチ装置付)	4サイクル ディーゼル機関 1,000馬力 1基
航海速力	約105節

(4) 航海日数

舧	海	7	日間
漁場(訓練)	2 0	6問。
合	ă	2 7	日間

(5) 定 員

(6) 漁撈装置 トロールウインチ 8トン 70米/分 1台 他

(7) 海洋調査機器 海洋調査用ウインチ 2.2KW 1台 他

(8) 電 源

動力用 交流 380ポルト 50HZ 3相 照明用 交流 220ポルト 50HZ 単相

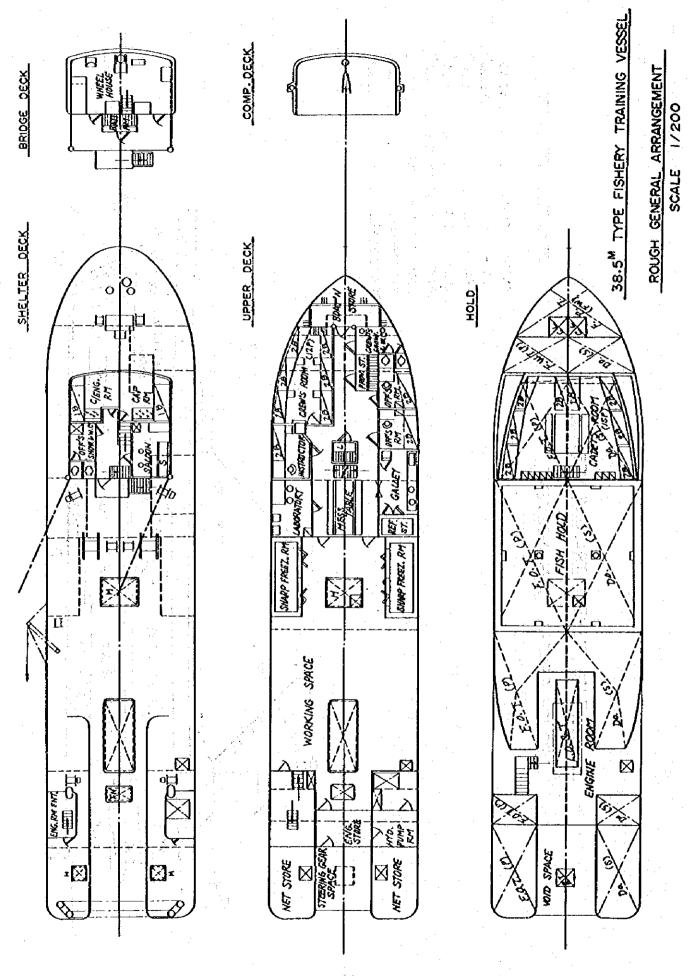
(9) 航海、漁撈及び通信用計器

レーダー 1台 a. 魚群採知機 1台 **b** . 1台 ジャイロ コンパス 1台 ネット レコーダー d. 送信機・受信機 1台 e. 国際 V. H. F. 無線電話機 1台 f. 方向探知機 1台 g. N. N. S. S. 1 台

(註) 要目表を末尾に附属資料として添付したので参照願いたい。

6-4 38.5 TYPE FISHERY TRAINING VESSEL ROUGH GENERAL ARRANGEMENT

PRINCIPAL PARTICULARS	LENGTH OVERALL 38.50 ^m LENGTH B.P 33.00 ^m BREADTH MLD, 7.80 ^m	DRAFT MLD. (DESIGNED) 2.30 ^m GROSS TONNAGE (ABOUT) 2.40 ^T MAIN ENGINE 1.000 PS COMPLEMENT 35 P			BOATWST,	3. 4.
ARRANGEMENT	1/200		St. List	TRAWL WINCH	SPACE SPACE SPACE SPACE SPACE SPACE SPACE	FISH HOLD CADETS ROOM (**)
ROUGH GENERAL	SCALE				ST & STATE CONSTITUTION OF STATE CONSTITUTION SPACE	AP ENGINE ROOM



[7] 運航のための留意事項

供与される漁業訓練船がモロツコにおいて円滑に訓練の用に供されるためにどの 様な点に留意すべきか、モロツコ側から提起された希望も含めてのべる。

7-1 予算措置。

船の運航に際して必要となる程費、すなわち燃料費、潤滑油費、港費、荷役費用、消耗品費用、人件費、食糧費、修理費、部品費、保険料、税金等は金額の大小はあるが、何一つ欠けても運航に支障をきたす。調査団はこの点をもっとも心配し、モロッコ側に確認したが、モロッコ側の発言によれば、必要な時点に6ヶ月先立ってその予算を申請すれば予算が確定するので問題ないとのことであった。

調査団としてはくれぐれも円滑な運航が可能である様な予算措置に留意して頂きた いと希望するものである。

7-2 専門技術者の確保

漁業訓練に関する専門技術者、特に漁撈長、船長、機関長についてのべたい。

この漁業訓練船に乗船し、実習を行なう学生達がはたして将来のモロッコ大型トロール漁船の幹部に成長し得るかどうかは、その条件の一つとして世界に通用する様な正しいトロール漁業の訓練がなされるか否かによっても決まってこよう。

このためには是非共、経験ゆたかな漁撈長-日本の場合であれば船長である-のも とでの基本的な訓練のカリキュラムが計画されるべきだと考える。

その他、たとえば冷凍機器の取り扱い等、保守も含めての指導が充分経験をつんだ 機関長によって行なわれるべきであろう。

このことに関連してモロッコ側から会議中再三、訓練船のモロッコにおける運航に対し、1年間程度の日本人技術者2~3名(船長、機関長他)による技術指導を希望するとの発言があった。此の作については、現在FAOからも3名の専問家(モロッコ側の発言によれば漁撈長、エンジン関係技術者及び訓練の専問家)がモロッコに派遣されており、1980年10月には更に2名(船長及び計器に関する専門家)が派遣される予定との事であり、これ等のFAOによる協力も勿論必要と考えるが、この派遣された人達の仕事の範囲の広さ、忙しさを考えあわせると、日本人技術者による指導がより好ましいと考えられ、実現する様に今後充分な検討がなされるべきだと考える。

7-3 艤装員の派遣

モロッコ海運漁業局が現在保有する訓練船は、10年前にフランスで建造されたものであり、今回供与される訓練船の機器はすべて日本製であって、これ等はモロッコ側関係者にとっては始めて操作する型式の機器となる。

機器の性能は正しい取扱いによってのみ正常にたもち得ると同時に、故障をも未然 に防止することから、乗組員の正しい取扱いは運航上の必要条件である。

モロッコ側の発言によれば、供与される訓練船にはモロッコ全国から選抜された乗組員が乗船するとのことで、勿論優秀な乗組員であろう事は想像出来るが、そうであっても是非共、日本での訓練船の建造期間中に議装員2~3名が来日し、進水から完了迄の2~3ヶ月間、機器類の取扱い、保守の方法に熟練する事を望むものである。

との問題については前項で述べた日本人技術者による長期指導の実現が困難と考えられたため、モロッコ海運漁業局に対し調査団からその代案もかねて受人れの可能性を示唆した。

ただし英会話が可能な人のみがその対象となり得るので、フランス語が一般的なモロッコ人にとってその人選には困難を伴うかも知れない。

7-4 部品調達

供与される漁業訓練船の機器の選定に当っては、モロッコでの部品入手の難易を勘案しながら決定されなければならないのは当然の事ではあるが、一般的にいって日本国内で製造された機器に対するモロッコでの部品の入手は容易であるとはいい難い。

したがって、部品の手配についてはモロッコ側が事前に充分な予算措置を講じ、製作、輸送に要する期間も考慮して、必要な時点では必ずストックがされている事を 望むものである。

单位:円

〔8〕モロッコ王国漁業訓練船に関する総経費

```
(1)
   基本船価
                                              390,000,000.
      (内訳)
              船体部
                          (152000000-)
              機関部
                          (148,000,000-)
              電気部
                          (55,000,000.-)
              管理費(10多) (35,000,000-)
               計
                          (390,000,000.-)
(2)
   附带费用
                                               1 8, 8 6 2, 8 3 2 -
      (内訳)
              а. <del>Ý</del>
                   備
                           (70000000-)
              b . 備品·船用品
                             7.000.000.-1
              c. 潤 滑
                      加
                             1, 4 0 0, 0 0 0.- }
              d. 試験操業
                              600,000--)
              e. 輸出手続他
                           \{2,862,832-\}
                   āt
                           (18,862,832.-)
    (註1) 予備品、備品、船川品については2年間の運航に対して充分な量とする。
           (船価に含まれる法定備品、予備品は除く。)
    (註2) e 項は輸出手続の他、回港燃料費等諸雑費不足分を充当する予備費を含む。
(3)
   漁具その他
                                               67,000,0000.-
      (内訳)
              人件费、旅费、食料费他
                                  (15,000,000.-)
                  燃料費
                                  (13.000000-)
                  港費(2港)
                                  (2,000,0000-)
                                  (30,000,0000.-)
                   小 計
              b. 回港保険料
                                  (3,000,000.-)
                漁
                     - 1
                  完成 緝
                            5張
                                   (10,0000,000-)
                  オッターボード
                            2組
                                  (3,400,000-)
                                  (2,300,000.-)
                  修理用網跑
                                  (2,600,0000.-)
                  ワイヤー類
```

その他 (4,700,000-)
小計 (25,000,000-)

d. 保証技師派遣等の技術協力
(9,000,000-)
(6MM、4MM)

(4) コンサルタントフィー
(内訳) 技術料 (14,610,368-)
実費 (7,524,808-)
計 (24,137,168-)

〔9〕 漁業訓練船の建造スケジュール

1979/ 8月	20日 ミニッツ署名
夕月	
10月	
11月	中旬 — 交換公文署名 下旬 — コンサルタント契約署名
12月	入札実施
1980/ 1月	
2月	造船所の設計期間
3月	
4月	初旬 4 起工式
5月	
6月	
7月	中旬 進水式
8月	騒 装
9月	末 → 引渡式
10月	
11月	モロッコ回答 ** カサブランカ着

条件: 左記予定はあく迄、11月中旬のE/N署名を条件とする。 従って、E/N署名の時期がずれれば、その后の予定もそれに応じてずれることと成る。

〔10〕 結論及びモロッコ政府への提言

モロッコ王国はアフリカにおける主要漁業国の一つであり、その保有する遠洋漁船は50隻余に達している。しかも漁業公社を中心として、1980年度までにトロール 漁船50隻を含む漁船63隻を購入する計画を推進中である。

しかし一方現状ではこれらの漁船に乗る乗組員及び漁撈技術者はもっぱら外国人に頼ってかり、モロッコ政府のこの分野における最終目標が遠洋漁業の振興であることか ち、モロッコ人の乗組員及び漁撈技術者の養成が急務である。

この人材養成のために必要な漁業訓練船を現在一隻しか保有しないことから、今回モロッコ政府から要請のあった漁業訓練船の供与は必要不可欠であると考えられる。 父、モロッコ政府に対しては供与后の円滑な運航を特に希望したい。

このため、漁業訓練船の仕様については特にモロッコでの保守が容易になるように注意したつもりであるが、建造の課程においても充分な意志の疎通をはかることが必要であり、このためにも建造期間中にモロッコ側艤装員2~3名が来日し、2~3ヶ月間、機器類の取扱い、保守の方法に熟練することを望みたい。

漁業訓練船がモロッコに到着したのちは、適切な予算措置を講じてその運航に支障がない様に留意して頂くと共に、部品の調達についても、日本製の機器部品の人手はモロッコでは容易であるとはいい難いので、充分な準備期間をもって発註し、必要な時点までには必ず人手出来る様に準備して頂くことを望みたい。

モロッコ政府の努力によってこれらの条件が満足された時には、供与される漁業訓練 船は、充分にその役目を果たし、モロッコ王国の漁業発展に大いに寄与するであろう。 附属 資料

資料-1 調 査 日 程

23日(4)

2 4 日金

25日(4)

ラバト発

パリー発

日本着

8月 6 日(月) 東京発 8 D(x) 日本国大使表敬訪問 外務省経済協力局次長、技術課長表敬訪問 運輸大臣、事務次官代理表敬訪問 ラバトからカサプランカへ移動 9 日(4) 海運漁業局との協議及び現地調査 10日份 魚市場視察、海運漁業局との協議を行うと共に調査団から必要負 料の収集を依頼。 11日(出 高等海員学校視察 1 2 日(日) カサプランカ港湾視察 カサプランカからサフィーへ移動 1 3 日(月) 海員学校視察、協議、漁港、魚市場、造船所、缶詰工場視察 サフィーからアカディールへ移動 1 4 13 (%) アガディール海員学校視察 魚市場、港湾施設視察 15日(水) 議事録作成、海運漁業支局表敬訪問 アガディールからマラケッシュ経由カサプランカへ移動 16日(4) 1 7 目(金) MINUTES 提出、造船所、修理工場視察 18日(生) 漁業公社(ONP)表敬訪問 1 9 H (II) 調査結果の整理 2 0 日(月) MINUTES 署名 カサプランカからラバトへ移動 大使に調査報告を行う 2 1 日(火) 2 2 11 (1) 大使館との最終話し合い、調査結果整理

資料-2 協議者名

(4) 日 本 倒

MR. ARITSUNE FURUKAWA

MR. FUMIAKI KUWAKINO

MR. HIROFUMI IGARASHI

MR. SHIGEYUKI ARAKI

MR. HEIICHIRO MASUYA

(ロ) モロッコ側

MR. LFAL MOHAMED
MR. TIJANI RHANMI
MR. IRAQI ABDELAZIZ
MRS YASSINE TOURIA
PROF. DURAND-GAILLARD

団長 水産庁

JICA

コンサルタント 大洋 グループ

. .

海運漁業局長

海運漁業局次長

海運漁業局職員

FAO旅遺専問家

資料-3 訪 問 機 関

- (イ) 在モロッコ王国 日本大使館
- (中) 外務省経済協力局
- (4) 運輸省
- (3) カサプランカ海運漁業局
- (オ) 高等海員学校
- (イ) サフィー海員学校
- (ト) アガディル海員学校
- (f) アガディル海運漁業支局
- (9) 漁業公社

資料-4 漁業訓練船要目表

(1) 船 主

モロッコ王国政府

(2) 噴数、鉛級及び用途

総噸数

約240 GT

船級

NK (NS', MNS')

用 途

漁業訓練船(トロール漁業訓練及海洋調査)

(3) 主要寸法等

全 長

約 385 M

幅 (型)

約 2.8 M

深(型)(上甲板まで)

約 3.3 M

吃 水 (計画、型)

約 2.9 M

魚館

約120 M³

燃料油槽

約125 M³

清水槽

約 35 M³

(4) 船 型

船。型

二層甲板型

船首形状

斜 曲 型

船尾形状

スリップウェイを有する巡洋艦型

(5) 速力及航海日数

海上公試最大速力

約 1 1 5 KNOTS

満載航海速力(常用出力、15多シーマージンにて) 約105 KNOTS

航海日数

航海

7 🛭

훼[

203

ất

2 7 日

(6) 急冷室及魚籟等

魚艙 甲板下(1艙)

約100M³(保持温度0~-05℃)

甲板上(両舷各1艙) 計 約 20M3(保持温度-25°)

急冷室(1室) 凍結能力 約1 TON / DAY - 30℃ (コンタクトフリーザー)

食糧冷蔵庫 肉 庫(1室) -15℃

野菜庫(1室) 2~5℃

(7) 乗 組 員

漁 扮 長

1

副漁拐長

. 2

船 長

1

一等航海士

1

機関長

1

一等機関士

1

乗 組 員(予備含む)

1 1

訓練士

1 6

āŀ

3 4

(8) 主 機 関

種 類 4サイクル単動トランクピストン型ディーゼル機関

(海水冷却方式)

台 数 1基

連続最大出力 1,000P.S.

(9) 推 進 器

3翼 可変ピッチプロペラ

(1) 発電機及び同原動機

発電機 AC 385V 50HZ 3 PHASE 140KVA 2台

原動機 170 PS × 1,500 RPM

2台

60 機関部関係機器

主空気圧縮機	× 1	自動発停式
補助空気圧縮機	× 1	ディーゼル原動機付
雑用兼消火ポンプ	x 1	6 0 M³/H×2 8 M
サニタリーポンプ	× 1	1 0 M3/11×2 5 M
ビルジポンプ 大排水用	× 1	3 0 M ³ / H× 2 0 M
ピルジ分離器用	× 1	0.5M³/H×25M
清水サービスポンプ	× 1	ホームポンプ 0.2KW
燃料油移送ポンプ	× 1	8M ³ /H×2.0 KG/C M ²
燃料油サービスポンプ	× 1	2M ³ /11×2.0 K G / C M ²
予備 C. P. P. 用変節ポンプ	× 1	
予備主機構滑油ポンプ	× 1	
主機用潤滑油冷却器	× 1	
補機用稠滑油冷却器	× 2	
主空気槽	× 2	
補助空気槽	× 1	
造水装置及付属機器	1式	2 TON/DAY
ビルジ分離器	× 1	0.5 TON/H
ボール盤	× 1	
グラインダー	× 1	
電気熔接機	× 1	200A

的 冷凍装置等

合康機 2段圧縮 22KW×1

単段圧縮 1 5KW× 1

凝縮器 ×1

受液器 × 1

急冷室コンタクトフリーザー上下装置 ×1 1.5KW

× 1 1 TON/DAY 製氷機 冷媒 フレオン R-22 自動膨張弁による直接膨張方式 63 電気部関係機器 電源 動力用 AC 380 V 50 HZ 3相 照明用 AC 220 V 50 HZ 单相 非常用 DC 24 V 発電機 AC 385V 50HZ 3相 140KVA×1,500RPM 380/220V 20KVA 変圧器 蓄電池 通信用 200AH 非常燈用 200AH 主配電盤 デッドフロント型 陸電受電箱 機動通風装置 居住区 1.1 KW × 1 $0.75 \text{KW} \times 1$ $0.4 \text{ KW} \times 1$ 機 関 室 3.7 KW X2 航海、漁撈及通信用計器 1 犬 船内電話 相互式 6局 1式 船内指令装置 出力 カセットテーププレーヤー付 $3.0W \times 1$, $1.0W \times 3$, $2W \times 1.0$ マイクロホン 3ケ 1 台 レーダー 出力 10KW 64浬 プラウン管10インチ ジャイロレビーター組込み

X 2

X 2

x 3

X 1

X 1

X 1

凝縮器冷却水ポンプ

魚群探知機

0~1,000 M 2 周波

5 KW

操舵スタンド組込 レピーター 4ケ 成気コンパス 電磁ログ 非突出型 1式 ネットレコーダー 曳航式 1式 無線装置 1 式 IF 16~ 4MHZ A1, A3J 200W, A3H 50W HF 4 ~25MHZ A1, A3J 400W, A3H100W 単及復信方式 シンセサイザー方式 受信機 全波シンセサイザー方式 国際VHF電話機 1 台 150MH2带 F3 20W 57CH 空中線切替器。 1式 蓄電池充電装置 1 式 無線方位測定機 1 台 200K~9MHZ ジャイロレビーター組込 NNSS 1台 ジャイロレビーター 組込 旋回窓 1 台 ÓĐ 甲板機械 揚錨機 3TON×15M/MIN (油圧駆動) 2.5 TON×3 OM/MIN (油圧駆動) 4 台 漁撈及荷役ウインチ 8TON×70M/MIN (主機前端油圧ポンプ駆動) 1台 トロールウインチ ワイヤー捲込 1.8MMが×1.800M (センタードラム 12TON×40M/MIN, 28MMダ×35M 2個付) 2.5 T-M 操舵機 60 海洋調查機器 ナンセン型転倒採水器 X 1 転倒温度計 被圧型 ×1 防圧型 × 1 プランクトンネット (大、中、小メッシュ型)

1 元

ジャイロコンパス 及 オートバイロット

海洋	調査機	袋用	ゥ	1	ン	Ŧ	
THE LIE	D/3 .E% 15	C 63 /11	_	٠	-	,	

× 1

2. 2 KW

(18) 救命設備

救命後 膨張式乙種 20名用

X 2

救命胴衣

× 3 5

資料-5 魚の種類一覧及び主な魚の写真

1コプダ

26 8 F E F F

27 サ

3 レンコダイ

28 ホ *

4 6 6 7 1

29 7 ħ

5 サ ク ラ ダ イ

30 7 **31**

6 ベニレンコダイ

31 F

1 ギンシマダイ

32 v

33 B

ナ ゴ 34 赤

10 1 サ + 35 黒 1

11 1 ~:

36 シュモクザノ

12 ス ズ + 37 カ ス ザ

13トラギス

38 1 t I E

14 ミシマアンコウー

39 ミットゲチヒロエビ

15 ス J. 1 40 モンコウイカ

16 h

41 9

17 E ジ 42 Y 1

18 7 ÿ

ン

ラ

ŋ

43 ~

19 =

44 D

20 ボ

45 ウ ナ

21 1 7 46 ħ 1

22 サ

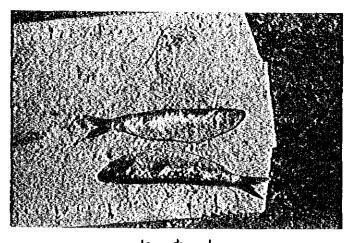
47 ヒ ラ

23 =

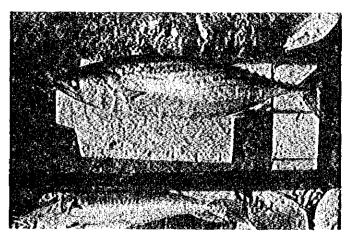
48 ニ シ キ ダ

24 I 1 49 スミレタイ

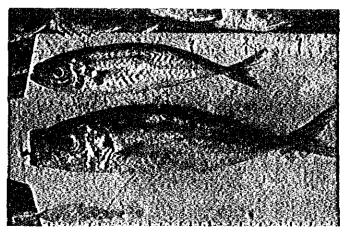
25 T



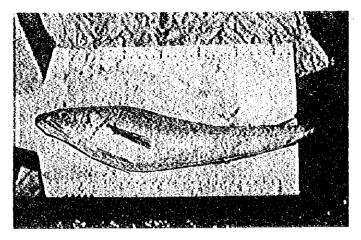




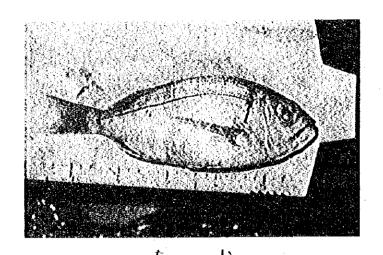
か つ ぉ

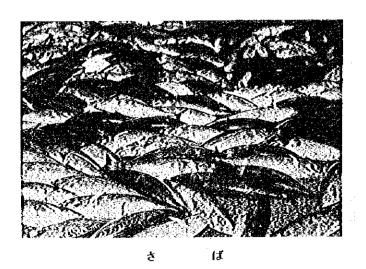


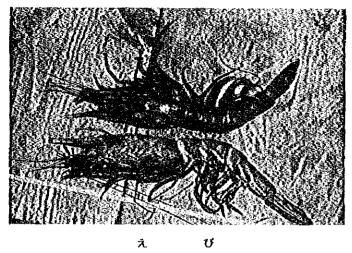
.



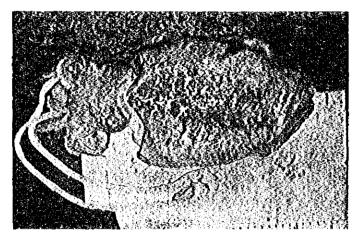
めるるーさ



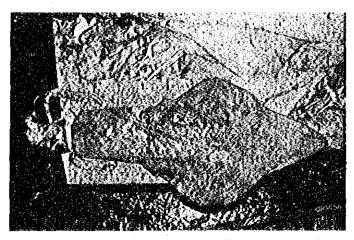


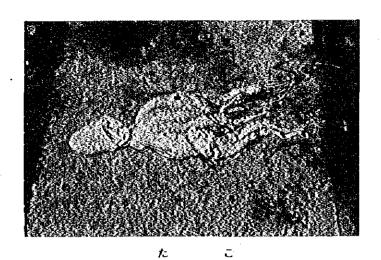


Ź.



もんこういか





資料-6 現地単個及び料金表

单位: DIRHAM(DII)

费 目	1 13	1ヶ月	備考
人 夫 (道路)	2 0 DH/H	500/600DXI/A	
// (荷役)	30 /B		8時間
門番	·	1,500 /月	海運局守衛
"	·	700 ⁄月	大使館
掃 除 (女)		400~500 /月	概略 8時間労働
運転手		1,600~1,800 /月	大使館
#(自動車借り上げの時)	70~80/日		8時間(自動車の借り代、ガソリン代、運転手代含めると 350DH/日程度となる。)
タイピスト		1,000~1,500/月	
案内人	25~35/日		英語ができる人 (半日の場合 15 DII)
ガソリン(普)	2.6 /L	÷	
" (EXTRA)	2.8 /L		
0 8 OIL	12 /L		
グリス UP	200~300/回		
914	180~200/本		チュープなし
トラック(借り上げ料)	300~400/日		1 トン
小型トラック (480CC)	30 /扫		市内
乗用車(1,200CC)	100~150/日		ガソリン代、走行距離追加の料金、8時間以上のオーバー料金等含ます。
タクシー代	0.6~0.7/100M		
TELEX(日本宛)	30 /%	'	
電 話 (基本料金)		80 /ß	
" (市内)	0.4 /@	•	
航空料金(ラバト→パリ)	1,990/片道		エコノミー
バス代(ラバト→カサブランカ)	6 /A		
乗合タクシー	10人人	·	
家 賃 (大使館)		1 4,000/月	
ブパート		3,000~6,0 00 /¶	サロン1、寝室2、台所。ただ し家具なしで、電灯も配線のみ

•				•	-		
段	B	1 Н	1ヶ月	1 6 備 2	9月 正考		
食事・プド	- 酒付 (夕食)	60~80/人					
食事(卧食)	40. /人		. 4			
宿 泊		ბ 0∼150/人					
⊐ ピ		1 /枚			1.674	,	
* *	·	4 / KG					
牛 肉	To the second se	38/KG					
鸱		17/羽					
トマト		4 / KG					
キャベツ		4.6 / KG					
シャガイモ		3 / KG				• .	
砂糖		3 ∠ KG	· :				
ウィスキー	(^{ショニー・ウォーケ})			·		- 1	
ピール	赤	2~3 /本		小ビン			
プドウ酒(-	モロッコ座)	15/本	ī				
·	<u> </u>				<u> </u>		
			*				
					111	*	
	:						
					1 <u>1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 </u>		
		.*.					
1		1.00		1	37.		

